

第 112 回看護師国家試験

## 42 期生看護師国家試験、全員合格しました！

見守り、支えていただいた全ての皆様、本当にありがとうございました。

### 13 年連続の全員合格

\* 第 112 回看護師国家試験(2023 年 2 月 12 日実施):受験者数 64,051 人  
全体の合格率:90.8%(新卒者 95.5%)。

この日を迎えるために取り組んだ国家試験対策の模試は全国・校内合わせて 16 回。

選択肢まで計算すれば 1 万問をはるかに超える問題数に挑みました。

また、周囲からもたくさんの激励を受けました。

父母の会の皆様からはカツサンドや飲み物、近所のファミマの店長さんからはホッカイロや鉛筆、

教員からは受っカレー、毎年恒例となっている卒業生達からのお菓子の差し入れなど

様々な人たちから声援を受け、42 期生はここまで頑張ることができました。

応援して下さいました地域の皆様、多忙な業務の中授業を担当された講師の皆様、臨地実習場の職員の皆様、

最後までバックアップしていただいた共立高看父母の会ははじめ、御家族の皆様、

42 期生をとりまく数多くの方々の力と 42 期生の努力の集大成の日となりました。

この場をお借りし、あらためて感謝し厚くお礼を申し上げます。

42 期生は 9 割が山梨県内に就職します。進学や県外で活躍する卒業生もいます。

未来の地域医療を担い、看護を創りだす 47 名です。

地域の皆様の健康を守る担い手として、「患者の立場に立つ看護」の実践者とし

更に成長できるよう、引き続き御支援をよろしくお願い致します。



## 答辞

厳しい冬の寒さも和らぎ、春の訪れを感じさせる今日の良き日、私達 42 期生 47 名は卒業の日を迎えることができました。思い起こせば 3 年前、新型コロナウイルスの影響で私たちの入学式は中止となりました。そしてクラスの子の名前と顔も知らないまま、オンラインの学校生活が始まりました。

ようやく登校できるようになったころ、座学に加え看護技術の練習も始まりました。緊張と不安の中、看護師の働く姿や 3 年生の高い技術力や観察力に憧れつつ、「自分は本当に看護師になれるのだろうか」と自問することもありました。学内の人形相手では上手にできていた看護技術も、実際の患者さんを目の前にすると全くうまくいかず、教科書で学んできた手順もベッドサイドでは頭が真っ白になってしまいました。そこで初めて患者さんひとりひとりに合わせた個別性のある看護を提供することが大切であると学ぶことができました。

ろうそくの灯りのもと行われた戴帽式。こちらも新型コロナウイルスの影響で従来とは違う方法での開催となりました。クラスで何度も話し合い、さまざまなアイデアを出し合い、すべてを一から考え迎えた本番は、自分自身が看護の道に進んだことを改めて実感し、看護師への思いを新たにすることができた素敵な式となりました。

1 年生の時にはずっと先のことのように感じていた 2 年生の山場である 4 カ月実習。先生方や指導者さんに助言をもらい一生懸命取り組みました。臨床で感じる知識・技術・精神面の未熟さ、十分なケアを提供できないもどかしさに悔し涙を流すこともありましたが、学生同士「行けば終わる！」「今日休まず来られた私たちは偉い！」と励まし合い、支え合いました。みんな自分のことでいっぱいいなはずなのに、お互いを気かけ、声をかけ合うことができる。そんな同級生の存在に何度も救われました。また患者さんの笑顔や「ありがとう」という温かい言葉は、疲れた心に染み、とても嬉しく、看護のやりがいを感じられる瞬間でした。

そして迎えた 3 年生。これまで構築してきた看護観を元に挑んだ総合実習。しかし実習期間中の感染拡大により、患者さんに別れを告げられないまま最後の実習が中止となりました。やり残した気持ちが強くありましたが、私たちはこの悔しさを集大成である卒業研究発表会へぶつけました。「患者さんが歩んできた生活背景や価値観を尊重し、患者さんの立場に立つて行うこと」が看護には大切であるということを再確認することができました。

実習や卒業研究発表会が終わると本格的に国家試験に向けた勉強が始まりました。感染対策のため、国家試験 2 週間前から自宅での学習となりました。オンラインでグループ学習を続け、42 期のみなどと繋がりを続けることで、1 人で勉強する孤独や不安を乗り越えることができました。

最後に学校生活を通し、いつも寄り添ってくれた先生方、一番近くで見守ってくれた家族に感謝の気持ちを伝えたいです。そして 42 期のみならず、「強いきずなで結ばれている 42 期生。自分たちの可能性を信じ、あきらめず 1 人もかけることなく困難を乗り越えていく。」と、戴帽式で誓ったことを覚えていますか。入学してから卒業するまで、新型コロナウイルスの影響を常に受け、制限の多かった学生生活は楽しいことばかりではなかったかもしれません。目標を見失いそうになったり、勉強や実習に弱音を吐くこともありましたが、しかしそれでも最後まで逃げずにやり切ることができたのは、仲間が存在があったからです。感染症対策で行事は少なくなりましたが、その分教室で過ごす時間が増えました。これがむしろ 42 期の絆を深めることに繋がったのではないかと思います。思いやりの気持ちを忘れず、お互いを支え合い、高め合い、この逆境を乗り越えたからこそ、2 年前の戴帽式で誓ったことを果たせたのではないのでしょうか。4 月から、これまでの学びや思い出を胸に、新たな一歩を踏み出します。42 期それぞれが目指す看護師像に向かい、努力を惜しまず進んでいきたいと思ひます。

令和 5 年 3 月 3 日 42 期生代表 金澤怜